

松戸市訪問看護連絡協議会の設立に向けて

地域の訪問看護ステーションと医師会の連携を強化することを目的に、松戸市医師会が主催して、「松戸市訪問看護ステーション地域連携促進会議」を開催しました。会議には、市内 20 の訪問看護ステーションの看護師（34 名）、在宅医（16 名）、地域包括支援センター職員（看護師および保健師 7 名）、行政職員（5 名）の総勢 62 名の参加を得ました。

松戸市では、在宅医が訪問看護ステーションの活動状況を包括的に把握できていないという状況があります。例えば、自身が主治医となっている患者さんに訪問看護サービスが必要と判断した際、地域のどの訪問看護ステーションに依頼するかを決めるにあたり、十分な判断材料が整理されていないのが実情です。

以上のような状況を踏まえて、2014 年 11 月に、松戸市医師会が市内の訪問看護ステーションの所長に呼びかける形で有志が集まり、課題の共有と解決方法について話し合う場を設けました。そこでは、在宅医療に携わる松戸市医師会会員医師から「訪問看護ステーションとの連携を強化したい」、「訪問看護ステーションについて、より詳細な実情を知りたい」といった要望が出されていることを出席者の間で共有し、共に取り組んでいくこととなりました。具体的には、寄せられている要望に応えるための取り組みとして、市内の訪問看護ステーションを対象にアンケート調査を行なうこととしました。

そして、アンケート調査票の作成、調査の具体的な進め方等について話し合う場を 2014 年 12 月に設けました。これら 2 回の会議を含む一連の取り組みをへて、各ステーションの得意分野や訪問エリアといった、ステーション毎の特徴やアピールポイントを小冊子の形にまとめました。

こうした一連の作業と並行して、松戸市内全ての訪問看護ステーションによびかける形で、2015 年 2 月に松戸市訪問看護ステーション地域連携促進会議を開催しました。会議では、各ステーションの所長に小冊子に記載された内容についてさらに説明していただき、また、参加者同士が交流する時間を設けたことで、顔の見える関係を深めることを意図しました。

この連携促進会議をへて、平成 27 年度には正式に松戸市訪問看護連絡協議会を設立すること、協議会の設立に際しては松戸市医師会が事務局機能を担うなど側方支援するということについて合意がなされました。